

今日は礼拝後に教会総会がもたれます。昨年からのコロナ禍のために総会の日取りを今日に延期しました。三密を避けるために教会に集まれる人数に限りがあることから意思表示を伴う委任状をもって参加者に加えることを役員会で決定いたしました。またいつものように昼食を取ってから総会を持つことが出来ないことからすでに総会資料を読んでいただくことを前提に総会を持ちます。非常に変則的な総会となりますが教会の規約上、総会で承認いただかないと活動を実行に移すことはできません。特に予算は承認いただかないと活動することは原則的に出来ません。様々な質問に対しては今後出来るだけ答えてゆくつもりですのでそのあたりご理解いただければと願っております。

さて午後の教会の総会はすでにこの礼拝から始まっていると自覚しております。総会資料に今年度の活動方針が記されていますがそれに関連づけてみことばが示していることに耳を傾けたいと思います。

今日の聖書箇所はパウロの祈りです。それも教会に対する切なる祈りです。3つの点についてパウロはその祈りの中で強調しています。それは第一に教会の「実り」と「成長」は何よりも神の愛が基となっていること、第二に神の愛はキリストの愛にすべてが表わされていること、第三に教会が恵みと祝福を受けて、つながる信仰者が祝福を受けるということをパウロは記しました。

第一の教会の実りと成長について 今年の教会の指針は「実り」と「成長」です。聖句として詩篇92篇12節の「正しい者はなつめやしの木のように栄え、レバノンの杉のように育ちます」を掲げました。聖書は「実り」や「成長」といったことを表す際、なつめやし、レバノン杉、ぶどう、いちじくといった植物、樹木が用いられ、描かれます。しかしそれらの実りや成長もそれ以前に与えられていたものがあるからこそ実りや成長ということになります。17節に「愛に根差し、基礎を置いているあなたがたは」とあります。信仰が無くてもある程度、人生において成長や実りを体験することが出来るでしょう。しかし、信仰者は神の愛に根差し、基礎をおいていますからそこで神様に、同じ主を信じる信仰の仲間たちに心からの感謝をすることが出来るのです。神の愛はさしずめ自然界で言うなら水、空気、土、光等、植物の成長に必須の要素と言ったら良いでしょうか。当たり前存在するのではなくそこに神の憐みと愛が示されているのです。

そして「その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力」18節とありますが樹木のように信仰者は上に向かい、横に広がり、そして下に深く根差し成長してゆきます。上に向かいとは主なる神を礼拝すること、主に賛美と感謝を捧げること、ひいては主に私を用いて下さいと献身する思いをもって生きることです。横に広がる成長とは伝道であり交わりです。キリストを中心とする豊かな交わりから救われる人が起こされる可能性は高いでしょう。良い木は良い実を実らせるのです。伝道と交わりは切っても切れない関係にあります。ある先生は「教会は伝道に目が向けられてゆくなら、他の複雑な問題、否定的な問題は起きない」と言われました。別の言い方をするなら伝道に目が向けられていない交わりは改めてチェックした方が良いのかもしれませんが。増して伝道の話が出てきたら交わりがうまく行かないというならその交わりの中心には誰がいるのでしょうか？ イエス様ですか？ 下に根づくということですが木は大きければ大きい程、高ければ高い程、地中深くしっかりと伸びた根を必要とします。それは一人一人の信仰者の歩みがしっかりと安定したものになっているということです。植物がしっかりと土に根づくためには時間も労力もかかります。しかしそれは見返りの大きい、将来への自己投資です。みことばを読み、学び、祈る時間を持ち続けることによって根付いてゆきます。

パウロの祈りの第二点です。神の愛はキリストの愛にすべてが表わされているということです。19節

に「人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。」とあります。私たちの内には17節に「こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように」とあるように信じた時以来、キリストは私とともに居てくださいます。これは神の約束です。ただ私たちは「人知をはるかに越えたキリストの愛」と言いましても、それほどキリストの愛が大きなものとは実感しにくいものです。キリストによって救われた者はみな、キリストの愛を知っています。けれども、私たちが知っているのは、キリストの愛のごく一部分にすぎません。神の愛は、キリストによって私たちに示されています。聖書は「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(ヨハネ第一 4:8-9) と言っています。ただ私たちは人知をはるかに越えたキリストの愛をなかなか体験することができません。それを知るために上に向かい、横に拡がり、下に根づいていくのです。平たく言うなら、人知を超えたキリストの愛、神の愛を体験するために礼拝があり、奉仕があります。

3つ目に教会が恵みと祝福を受けて、それから、つながる信仰者が祝福を受けるということです。よく自分のことは今は精一杯で教会のことまで手がまわらない、あるいは無関心であるといったことばを聞くことがあります。しかしパウロは誰か個人で抜きんでた人だけに關心を寄せていません。教会が恵みと祝福を受けて、つながる信仰者が祝福を受けるのです。この短い箇所「あなたがた」ということばが4回出てきます。もともとこのエペソ書は教会論、教会について語られているとよく言われます。1章23節に「教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところ」とあります。神は教会こそ恵みと祝福が満ちているところとされました。私という信仰者は教会において輝くのです。もう一つ4章16節に「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」とあります。信仰者はキリストのからだなる教会につながってこそ成長するのです。

信仰者の生涯は「実り」を觀たり、「成長」することによってキリストの愛、神の愛を知り続けてゆく旅のようなものです。今年も神様は私たちに新たに神の愛を、キリストの愛を経験出来るように備えて共に歩んでくださいます。コロナ禍ということもそれを体験するに際しての妨げとはなりません。むしろ、人が自分の人生にとって何が大切なのかを知る機会となるかもしれません。迫害の時代にこそ、教会は拡大し、救われる人が多く起こされたとも教会史の専門家は言います。主にあって豊かな実りとますますの信仰者としての成長を願い求めながら歩んでまいりましょう。